

日本

貿易統計 (2019年12月)

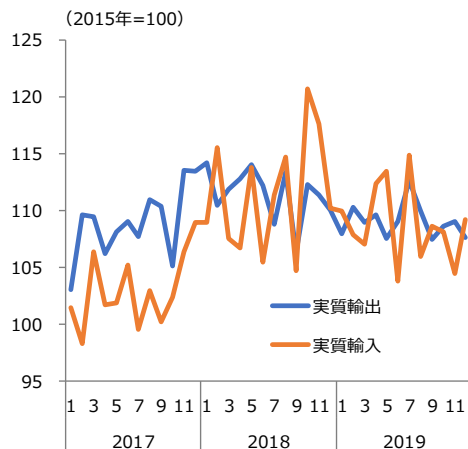
半導体関連に持ち直しがみられるも、輸出は低調

政策・経済研究センター

綿谷謙吾

03-6858-2717

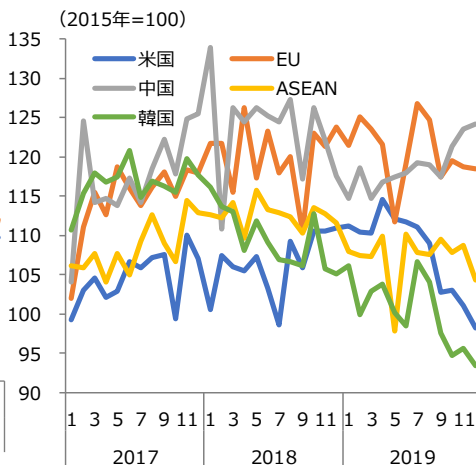
1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

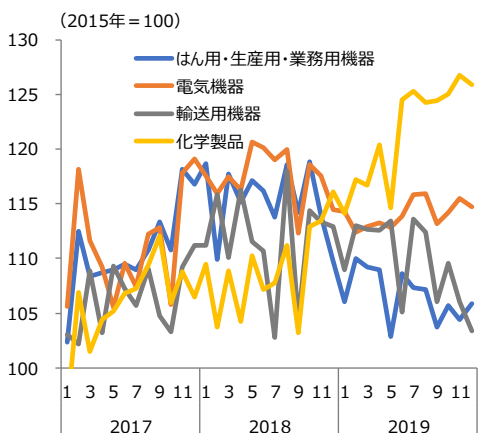


評価ポイント

今回の結果

- 19年12月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲1.3%、実質輸入は、同+4.6%となった（図1）。貿易収支（季節調整値）は、▲1,025億円と、6カ月連続で赤字。
- 四半期で見ると、実質輸出（当社による季節調整値）は前期比▲1.5%、実質輸入は同▲2.3%と輸出入ともにマイナスに転じた。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、中国向けが増加し、その他の国・地域向けは減少した。中国向けは前月比+0.6%と3カ月連続で増加。中国向け輸出シェアの高い、はん用・生産用・業務用機械が全体を押し上げた。米中貿易摩擦の影響から、18年以降は減少傾向にあったが、持ち直しつつある。米国（同▲2.9%）は19年半ばからの減少傾向が継続（図2）。特に、輸送用機器が大きく減少した。韓国向け（同▲2.3%）も減少傾向が継続している。
- 半導体製造装置の実質輸出は、前年同月比+27.1%と大きく増加し、2カ月連続の増加となった。（図4）。特に、中国向けの輸出が同+61.4%と大幅に増加した。世界の半導体需要は下げ止まり感がでてきており、日本の半導体関連の輸出も持ち直しの動きがみられる。

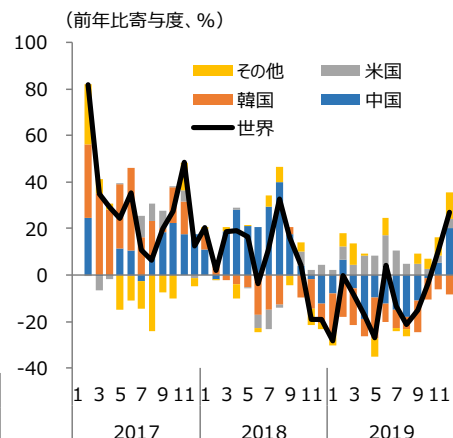
3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 半導体製造装置の実質輸出



基調判断と今後の流れ

- 輸出は海外経済の成長減速などを背景に、18年後半以降、緩やかな減少傾向にある。
- 先行きの輸出は、横ばい圏内で推移すると見込む。半導体関連需要の下げ止まり感が出てくるなか、米中貿易協議の第1段階の合意により、さらなる激化は回避される見通しが強まった。ただし、①第1段階の合意後も残る米中関税の影響顕在化、②海外経済の緩やかな減速、が輸出の重しとなり、輸出は低水準で推移するだろう。
- さらなる下振れリスク要因として、①米中・米欧貿易摩擦の一段の激化、②金融緩和下で拡大してきたリスク性資産への資金流入の逆流、③中東情勢の不安定化がある。これらが顕在化した場合、円高や海外経済の減速を通じて、輸出の下振れにつながる可能性がある。